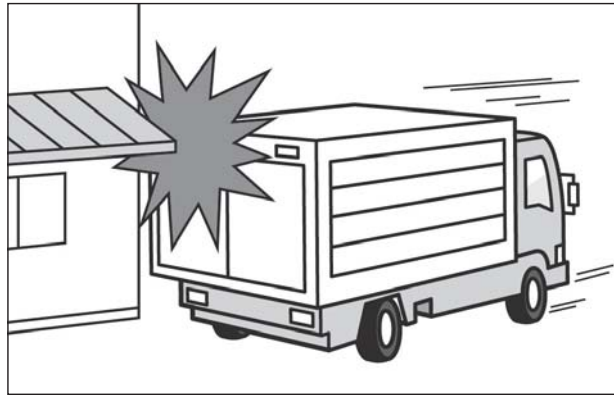


職場における 交通安全指導

Part 120

■構内の通路でバックした際、倉庫の庇に衝突



■事故の概要

●事故の当事者

当事者A：運転者（大型貨物車） 40歳代 男性

●被害状況

A：アルミパネルバン左後上部の凹損
B：倉庫建物の庇を破損

事故状況

横浜市内の運送会社に10年勤続するAは、以前にもトラックでの配送業務経験があるベテランの大型トラックドライバーである。

事故の当日は、大型貨物自動車工場から食品を積込み、取引きのある遠方の倉庫への配送業務を行っていた。

Aは午後3時に目的地の倉庫に到着し、構内で方向転換およびバックで駐車をするために、サイドミラーやバックモニターで確認を行った。サイドミラーには他の貨物自動車が道路に出て行くところが確認できたが、バックモニターを見ながらバックを始めると、左後上部で『ガキッ』と音がし、車を降りて確認すると建物の庇に衝突し破損させていた。

Aはバックする際に、目視で十分な後方確認をしないまま安易にバックを開始したため、今回の事故となった。

安全指導

バックを開始する前に降車し、目視していれば建物の庇に気が付き、この事故は未然に防げたことは言うまでもありません。構内では、このような後退事故が多発しているため、構内後退事故の防止についてまとめました。

① 構内後退事故の発生状況（2018年度）

損壊物	区分	構内事故発生件数	後退事故	
			件数	構成率
車	両	293件	167件	52.2%
建	物	45件	38件	11.9%
構	内	152件	56件	17.5%
門	柱	13件	7件	2.4%
シャ	ッター	34件	15件	4.5%
フェ	ンス・塀	32件	25件	7.7%
そ	の	22件	12件	3.8%
合	計	591件	320件	100.0%

表は、2018年度の当組合での構内後退事故発生状況です。対物事故は1,602件で、その内、構内事故は591件と全体の36.9%を占めております。また、構内で起きた事故の半数以上となる320件が後退時によるもので、構成率は54.1%と非常に高い比率を占めています。後退（バック）する際は十二分な確認が必須です。

② 確認の徹底と危険予測運転の励行

構内は馴染みのある場所が多く、油断を引き起こしやすいものです。また、進入時に全体の状況を把握したつもりになったとしても、油断からくる見落としなどにより、今回のように上方にある建物の庇に衝突する場合があります。

進入時に車や人の往来がないか十分チェックしたとしても、バックする時点では状況が変わっており、安易にバックすると車や人などに衝突する場合も考えられます。

バックする際は、面倒でも車を降りてトラックの後方に回り安全の確認を目視で行いましょう。また、バックブザーによる警戒音で周囲の人に注意喚起をし、バックする際は、人が歩く位のスピードを心掛け、違和感が少しでもあればすぐに停車ができるよう、十分注意を払う必要があります。

③ 慣れ、油断と思い込み運転の防止

構内は、道路と違い自車を含めて走行の速度が遅いこと、移動範囲が狭くすぐに周囲の状況に慣れること、そのため道路より緊張感が薄れがちになり、思い込みからの事故を惹起し兼ねないこととなります。

また、最近はバックモニター・バックアイカメラが付いているトラックが多くなり、便利にはなりましたが、モニターに頼りすぎて目視を怠り、モニターに映らない上方の障害物など確認を疎かにしたままバックしてシャッターや今回のような建物の庇、その他看板等に衝突する事故も多発しています。

この様な油断や慣れからくる注意不足による事故が多いので十分注意しましょう。

④ 事故防止のポイント

後退事故防止のポイントを確認しましょう。

ア. 安全確認を徹底する。

乗車する際の確認は当然のことですが、バックの走行中も窓を開けて、周囲の状況や音声を確認しながらバックしましょう。

イ. バックモニター・カメラに頼り過ぎない。

バックモニターだけに頼り過ぎることなく、自分の目やミラーでも後方確認をする。

ウ. 直ちに止まれる速度でバックする。

人がゆっくり歩く程度の速度でバックし、すぐにブレーキに足を移せる心構えで走行する。

エ. 構内への出入りは、できる限り前進で行う。

やむをえず後退する場合は、最小限にとどめ、できる限り前進で行う。

オ. すぐにバックしない。

バックギアに入れたら、一呼吸おいてバックブザーが2～3回鳴ってから、バックを開始し、同乗者がいる場合は誘導を依頼する。